

2026年2月13日
日本銀行決済機構局

第5回CBDCフォーラム全体会合の議事概要

1. 開催要領

(日時) 2026年1月29日(木) 14時00分～15時10分

2026年1月30日(金) 11時00分～12時00分

(形式) Web会議形式

2. 日本銀行からの説明等

- 事務局から、パイロット実験の進捗状況やCBDCを巡る海外の動向¹、CBDCフォーラムの今後の運営²について説明を実施。その後、質疑応答を行った。

3. 主な質疑等

(参加者) 現在7つのワーキンググループ(WG)を3つのディスカッショングループ(DG)へ再編し、横断的な議論を行っていくことは賛成である。ただし、全てのDGに参加するにはスケジュールの調整が難しい可能性も考えられるため、複数のDGに関連するテーマを議論する場合は、DGの垣根を越えて議論ができる場を設けていただけるとありがたい。

(事務局) 現在のWGでも、複数のWGに関連するテーマを議論する場合には共同で会合を開催してきたように、今後開催するDGにおいても、重複するトピックや複数のDGが関係するテーマを議論する場合には、共同開催も視野に入れた横断的な運営を行っていきたい。

(参加者) CBDCの具体的なユースケースを定め、実現のための課題整理や運用フローの検討を進めている国もある。DGにおいても、こうした取り組みを参考に、具体的なユースケースを設定し、検討を進めるのも一案ではない

¹ https://www.boj.or.jp/paym/digital/d_forum/dfo260203b.pdf 参照

² https://www.boj.or.jp/paym/digital/d_forum/dfo260203a.pdf 参照

だろうか。

(事務局) C B D Cの検討が徐々に進み、解像度が高くなっていくことで、必然的に具体的なユースケースを設定する段階に移行し、社会実装に向けた具体的なタスクも明確になっていくと思われる。日本銀行からも引き続き情報発信を行いながら、具体的なユースケースを想定し、さらに議論を深めていきたい。

(参加者) ステーブルコインやトーケン化預金をはじめ、分散型台帳技術（D L T）を活用した新たなテクノロジーが台頭している。世界的な潮流を踏まえつつ、こうした技術をどのように活用し、連携を進めていくかについて、より積極的に議論できるとありがたい。

(事務局) 新たなテクノロジーに関する分野は、ますます重要性を増しており、様々な検討を行っていく必要があると認識している。今後もこれまで以上に、皆様と議論を重ねていきたい。

以 上